

## 聖木曜日のための個人や少人数での祈りのしおり

「聖木曜日」は、主が弟子たちの足を洗われ、また、ご自身の体と血としてパンとぶどう酒を弟子たちに与えられた出来事を心に刻む「洗足と聖餐」の日です。

(式文ハンドブック 20 ページ)

\*個人で祈るときは会衆の部分も自分で唱えるが、キリエは会衆の部分は唱えない。

\*主の祈りは新式文から抜粋・引用。

### 1. み名による祝福

司) 父と子と聖霊のみ名によって

会) アーメン。

### 2. その日の詩篇

詩編 116:1-2&12-19

### 3. キリエ

司) 主よ、憐れんでください。

会) 主よ、憐れんでください。

司) キリストよ、憐れんでください。

会) キリストよ、憐れんでください。

司) 主よ、憐れんでください。

会) 主よ、憐れんでください。

### 4. その日の祈り

全) 愛の源、聖なる神様。裏切りの夜、主イエスは新しい掟(おきて)を授け、私たちが互いに愛し合うよう教えられました。私たちの心にこれを刻みこみ、しもべとなった主に倣い、他者に仕える心をお与えください。あなたと聖霊とともにただ独りの神、永遠の支配者、御子、主イエス・キリストによって祈ります。アーメン

## 5. 聖書の朗読

(すべてを用いてもよいし、一部を用いてもよい)

出エジプト記 12:1-14

コリントの信徒への手紙一 11:23-26

ヨハネによる福音書 13:1-17, 31b-35

## 6. 小説教

(少人数での礼拝の場合は一人が代読、個人での祈りの場合は黙読してもよい。  
その後、沈黙や少人数での分かち合いを持つこともできる)

## 7. 主の祈り

(主の祈りを祈る前に、自分の言葉で祈ってもよい)

全) 天におられるわたしたちの父よ、  
み名が聖とされますように。  
み国が来ますように。  
みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。  
わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。  
わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。  
わたしたちを誘惑に陥らせず、悪からお救いください。  
国と力と栄光は、永遠にあなたのものです。  
アーメン

(ローマ・カトリック教会／日本聖公会 共通口語訳、2000年)

## 8. 祝福と閉会

司) 全能の神、父と子と聖霊の祝福が、私(たち)と、離れたところにいる  
仲間たちと、すべての人の上にありますように。

会) アーメン。

## 小説教：

私たちは、大いなる三日間として十字架に御架りになるイエス・キリストのご受難をおぼえて過ごしています。今日の木曜日は、人々に捕らえられる最後の晩餐での出来事が取り上げられています。ここでイエスは上着を脱ぎ、そしておそらく跪き、召使いの姿となり、弟子たちの足を洗われるのです。

神学校も毎年、聖週間は寮の礼拝堂に集まったの礼拝を続けてきました。聖木曜日の礼拝は、神学校校長がまず神学生たちの足を洗い、また互いに足を洗う洗足式を行っています。それは今日の聖書箇所で「ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。」(14節)とのイエスの言葉があるからです。

この洗足式にはいつも緊張が伴います。人の足を洗うこともそうですが、自分の足を洗ってもらうことに緊張します。汚れているからです。人に洗ってもらうのなら、できたら自分で一度足を綺麗にしてからでないと、とても落ち着きません。そわそわしてしまいます。ペトロもそうだったでしょう。聖書の時代は、私たちの時代のように靴も靴下もありません。草鞋のようなもので土埃が舞う地を行き来していました。足は歩く限り、汚れてしまうのです。日常をただの日常と過ごす中であって、足が汚れることは至極当然のことだったのです。

これは聖書が語る罪ある私たちの姿に似ています。道を歩くだけで足が汚れてしまうように、私たちも日ごと生かされている限り、多くの罪を犯してしまいます。何か大きな過ちを犯したということだけではありません。聖書では、私たちが内に持つ悪意、ねたみ、不誠実、高慢も罪というのです。私たちが隠そうとするそのような心の奥深くにまで神は目を向けます。なぜならそこにまで踏み込まないと私たちの魂に届かないからです。厳しいものです。でも私たちも実は知っている。この自分も罪人である。聖書に書いてある通りなのです。

しかし、汚れ無き者でありながら仕える者として、私たちの内に巢食う罪にまで触れてくださる方があります。それは召使いの姿になって、弟子たちの前に跪いたイエスです。このイエスが私たちの罪に触れようとする時、私たちは自らの汚れを明らかにしなければならぬ戸惑いもあるでしょう。しかし私たちはまた自分で自分の汚れを洗い清めることができないことも知っています。だから私たちは祈りつつ、イエスに委ねたいのです。「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」(8節)、「主よ、足だけでなく、手も頭も。」

(9節)。このイエスとペトロのやり取りに表されるように私たちも今、自らを開い

て罪ある自分を主に委ねましょう。私たちの目の前に跪くイエスは、十字架で自らを捧げるまで私たちを愛し、仕える生涯を全うされました。罪あるあなたのすべてを愛することに生涯を捧げられた救い主なのです。アーメン。